

2020年2月

2019年冬季・物価と消費に関するアンケート調査【定例項目】
「暮らし向き」12月季としては、5年ぶりに悪化
「世帯収入DI」は初めてプラス水準に

(株)滋賀銀行のシンクタンクである (株)しがぎん経済文化センター(大津市、取締役社長 北川 正義)は、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「2019年冬季・物価と消費に関するアンケート調査」を実施した。以下のとおり、調査結果を公表する。

【調査の概要】

- ・調査名：「2019年冬季・物価と消費に関するアンケート調査」【定例項目】
- ・調査時期：2019年12月16日～18日の3日間
- ・調査対象：滋賀銀行の本支店にご来店の女性（県内在住者のみ）
- ・有効回答数：606人（うち29歳以下：83人、30代：93人、40代：164人
50代：128人、60歳以上：138人）

【調査結果の要旨】 定例項目

(1) 【暮らし向きDI】…前期比で悪化。12月季の推移でも悪化に転じる

- ・現在の「暮らし向きDI」は-8.0で、前期（19年6月：-4.1）から3.9ポイント悪化した。
- ・12月季のみの推移でみると、直近では14年12月（-20.3）をボトムに良化傾向にあったが、5年ぶりに悪化に転じた。

(2) 【世帯収入DI】…調査開始以降、初めてプラス水準に

- ・現在の「世帯収入DI」は2.4で、前期（-0.9）から3.3ポイント良化し、本調査を開始した2009年6月（-42.9）以降、初めてプラス水準となった。
- ・12月季のみの推移では、直近は15年12月（-10.1）をボトムに良化傾向が続いている。

(3) 【物価DI】…2期連続で上昇し+70を超える

- ・現在の「物価DI」は+76.8で、前期（+67.5）から+9.3ポイントと、2期連続で増加した。+70を超えたのは16年12月以来、6期（3年）ぶり。

(4) 【耐久消費財の買い時】…“(やや)悪くなる”が減少

- ・今後半年間の「耐久消費財の買い時」は、「良くなる」「やや良くなる」の合計が8.0%で、前期（8.2%）から微減。「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は31.7%で、前期（38.4%）から6.7ポイント減少した。

(5) 【世帯の消費行動】…増やしたい「預貯金、投資」6割超で根強く、

減らしたい「通信費」「衣類、ファッション」が増加傾向

- ・今後半年間で支出を「増やしたいもの」は、「預貯金、投資」（65.9%）が最も高く、次いで「子どもや孫の教育費」（33.8%）、「旅行、レジャー」（32.4%）、「趣味、教養、自己啓発（習い事など）」（31.9%）と続いた。この4項目は“減らしたい”とする割合よりも“増やしたい”とする割合が高くなった。
- ・「減らしたいもの」は、「外食」（59.4%）が最も高く、次いで「水道・光熱費」（54.8%）、「食料品（日々の食費）」（51.8%）、「衣類、ファッション」（50.4%）、「通信費」（50.2%）の上位5項目すべてで5割を超えた。
- ・推移をみると、「増やしたいもの」は「預貯金、投資」が一貫して6割を超えて高く、「減らしたいもの」は「通信費」「衣類、ファッション」の増加が顕著である。

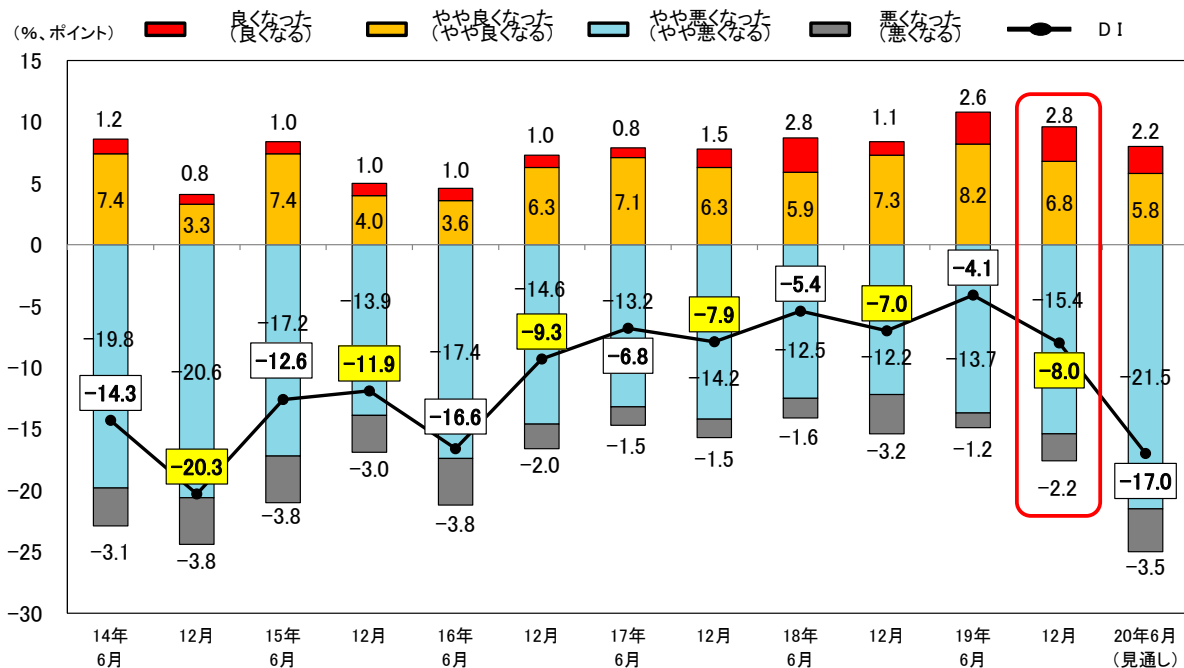
【調査結果の詳細】定例項目

(1) 【暮らし向きDI】…前期比で悪化。12月季の推移でも悪化に転じる

現在（2019年12月）の「暮らし向きDI」（「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値）は-8.0で、前期（19年6月：-4.1）から3.9ポイント悪化した。12月季のみの推移でみると、直近では14年12月（-20.3）をボトムに良化傾向にあったが、5年ぶりに悪化に転じた。19年10月1日に実施された消費税の税率引き上げが影響しているものと思われる。

半年後（20年6月）については、9.0ポイント低下の-17.0と大きく悪化する見通しであるが、半年後の見通しはかなり厳しく判断される傾向にあるため、現時点での見通しほど悪化しない可能性がある。

図1 暮らし向きDIの推移



注)「良くなった(なる)」と「やや良くなった(なる)」はプラス表示に、「悪くなった(なる)」と「やや悪くなった(なる)」はマイナス表示

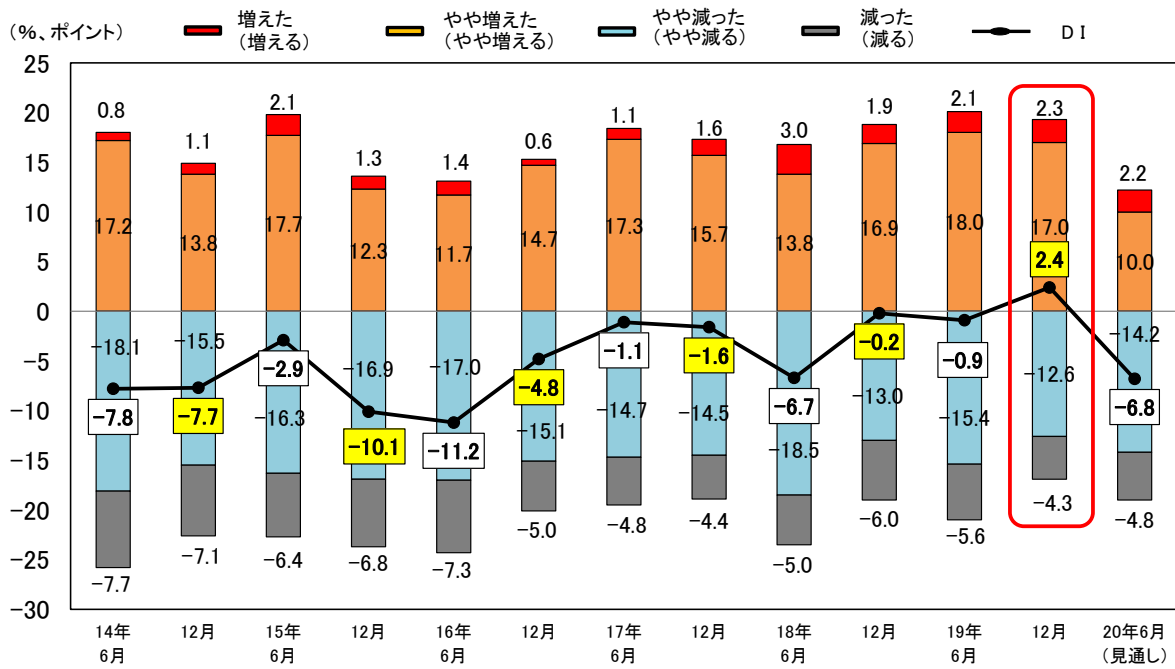
(2) 【世帯収入DI】…調査開始以降、初めてプラス水準に

現在の「世帯収入DI」（「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値）は2.4で、前期（-0.9）から3.3ポイント良化し、本調査を開始した2009年6月（-42.9）以降、初めてプラス水準となった。12月季のみの推移では、直近は15年12月（-10.1）をボトムに良化傾向が続いている。

半年後は-6.8で、現状から-9.2ポイントと悪化する見通しであるが、半年後の見通しはかなり厳しく判断される傾向にあるため、現時点での見通しほど悪化しない可能性がある。

（グラフは次ページ）

図2 世帯収入DIの推移



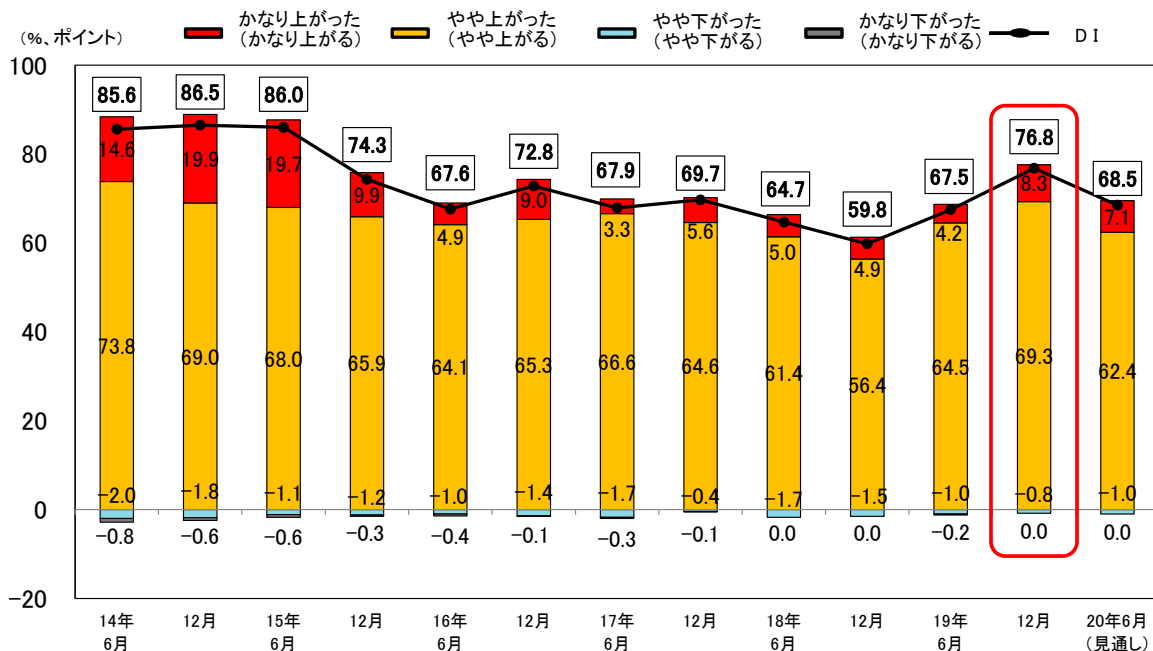
注)「増えた(える)」と「やや増えた(える)」はプラス表示に、「減った(る)」と「やや減った(る)」はマイナス表示

(3) 【物価DI】…2期連続で上昇し+70を超える

現在の「物価DI」(「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値)は+76.8となった。前期(+67.5)から+9.3ポイントと2期連続で増加した。+70を超えたのは16年12月以来、6期(3年)ぶりで、消費増税の影響によるものと思われる。

半年後の「物価DI」は+68.5と、現状から-8.3ポイントとやや減少する見込みで、消費増税後の警戒感はやや落ち着く見通しである。

図3 物価DIの推移



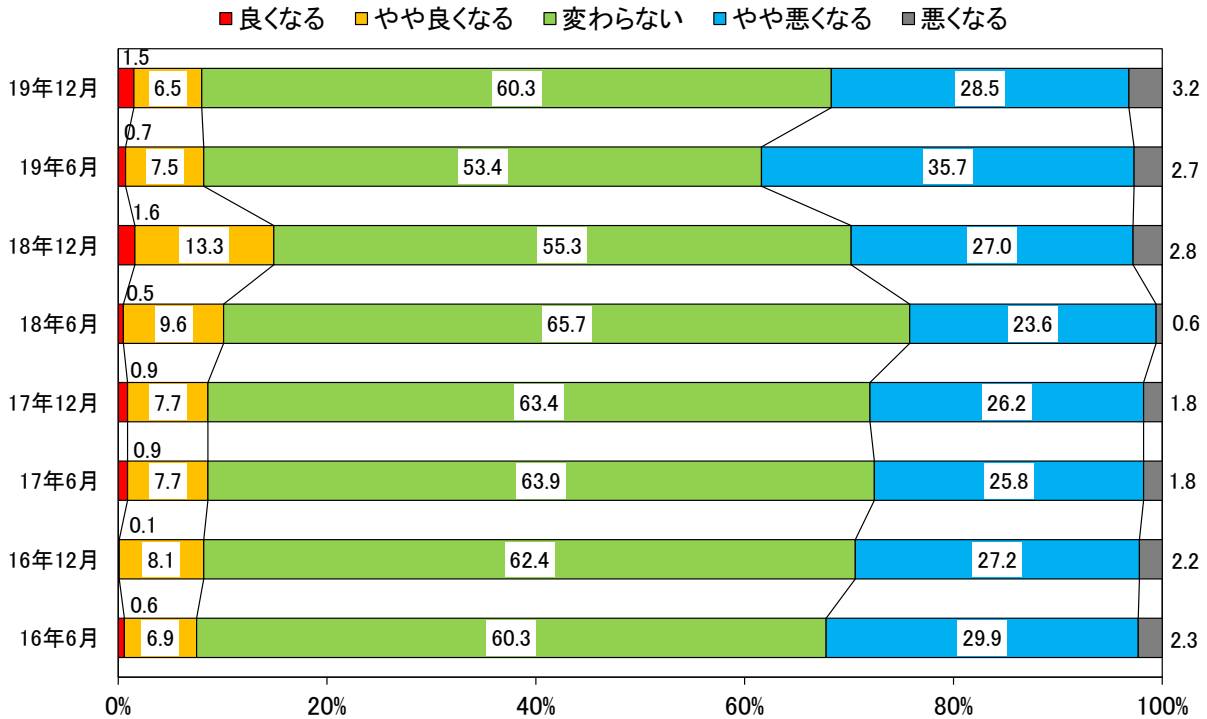
注)「かなり上がった(上がる)」と「やや上がった(上がる)」はプラス表示に、「かなり下がった(下がる)」と「やや下がった(下がる)」はマイナス表示

(4) 【耐久消費財の買い時】・・・“(やや)悪くなる”が減少

「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」については、「良くなる」「やや良くなる」の合計は8.0%で、前期(8.2%)から微減した。

また、「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は31.7%で、前期(38.4%)から6.7ポイント減少した。「変わらない」(60.3%)は3期(1年半)ぶりに6割を上回った。

図4 耐久消費財の買い時(今後半年間)



(5) 【世帯の消費行動】・・・増やしたい「預貯金、投資」6割超で根強く、

減らしたい「通信費」「衣類、ファッション」が増加傾向

今後半年間の世帯の支出について、支出を「増やしたいもの」「減らしたいもの」をたずねた(複数回答)。

今後半年間で支出を「増やしたいもの」は、「預貯金、投資」(65.9%)が最も高く、次いで「子どもや孫の教育費」(33.8%)、「旅行、レジャー」(32.4%)、「趣味、教養、自己啓発(習い事など)」(31.9%)と続いた。この4項目は“減らしたい”とする割合よりも“増やしたい”とする割合が高くなった。

一方、「減らしたいもの」は、「外食」(59.4%)が最も高く、次いで「水道・光熱費」(54.8%)、「食料品(日々の食費)」(51.8%)、「衣類、ファッション」(50.4%)、「通信費」(50.2%)の上位5項目すべてで5割を超えた。日常の生活費から非日常的な外食費まで、節約意識は幅広い項目にわたっている。

本設問を設定した16年6月からの傾向をみると、「増やしたいもの」は「預貯金、投資」が一貫して6割を超えて高く、「趣味、教養、自己啓発(習い事など)」は増加傾向にある。「減らしたいもの」は上位5項目のうち「通信費」を除く4項目が前期比で増加。長期的には「通信費」「衣類、ファッション」の増加が顕著である。

(グラフは次ページ)

図5 今後半年間で世帯の支出を「増やしたいもの」「減らしたいもの」(複数回答)

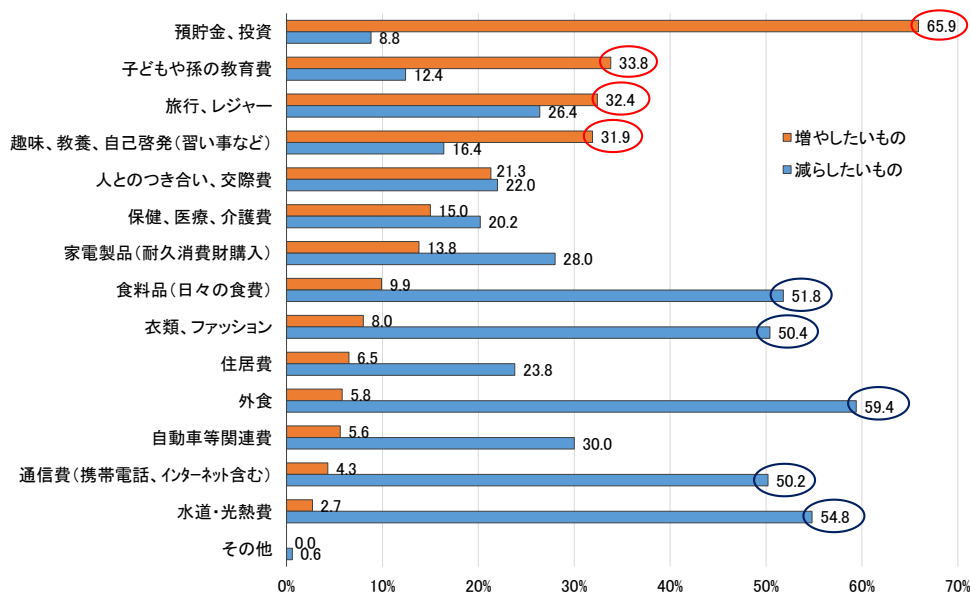


図6 今後半年間で世帯の支出を「増やしたいもの」(複数回答)
(「減らしたい」割合を上回る項目)

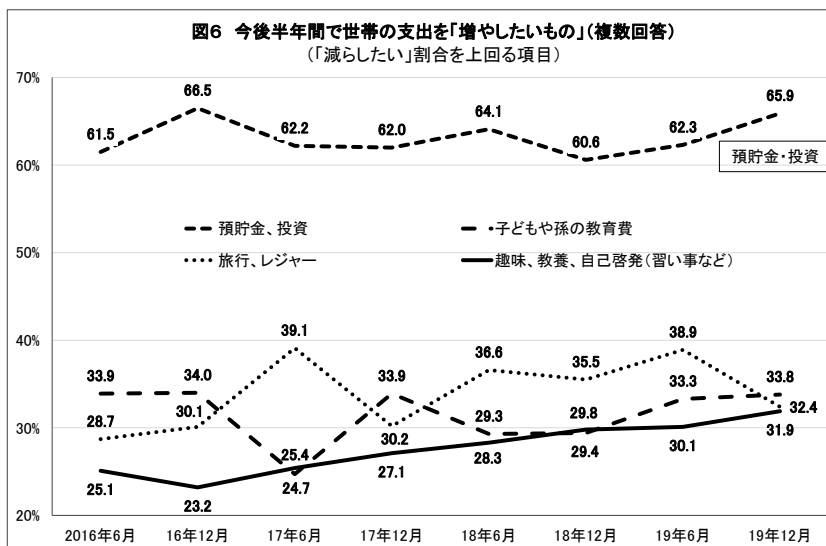
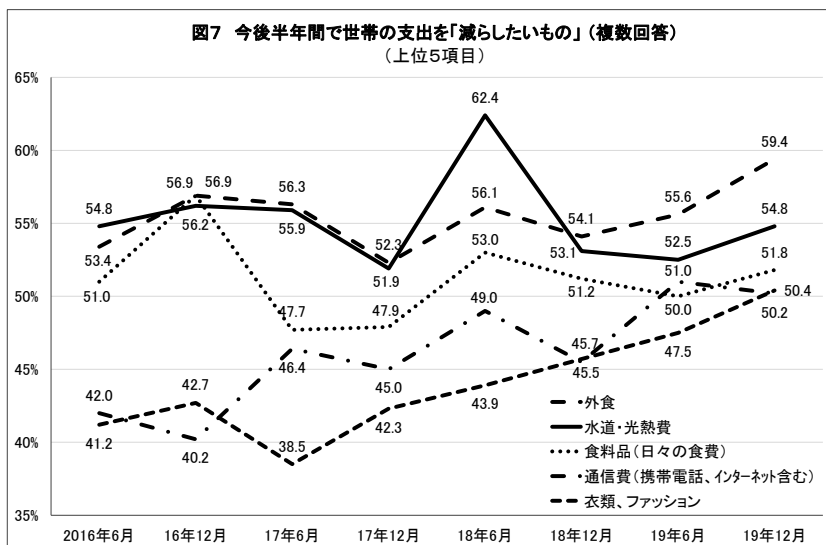


図7 今後半年間で世帯の支出を「減らしたいもの」(複数回答)
(上位5項目)



本調査結果に関するお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター

産業・市場調査部 長山 (TEL 077-523-2245)